



図 1. 防災科研 Hi-net の記録波形に見られる後続波. イベント A(左), および イベント B(右) のリデュース記録波形を示す. それぞれの観測点の記録波形の縦軸上での位置は震央距離を, 横軸は "震源時からの経過時間(s)-震央距離(km)/リデュース速度(km/s)" を表す. リデュース速度は 8 km/s を採用した. 顕著な P 波後続波の到達時を矢印で示す. 記録波形の振幅は, 観測点毎にこの後続波の最大振幅で規格化した. 記録中に見られる後続波は, その走時や見かけ速度から, sP[#]変換波であると考えられる.

#) 震源から上方へ S 波として射出された後, 地表で P 波へ反射変換してから観測点へと到達する相. この相と P 波初動との走時差は震源の深さに敏感なため, その走時差は震源の深さの推定に使われることがある.